

# ブドウ（有核・雨除け栽培）の栽培・防除暦（令和2年版）

生 産 履 歴 の 記 帳 を 行 い ま し よ う	月	旬	生育相	管理作業	対象病害虫	基幹防除		100% 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日 散布量 記入欄	農 薬 散 布 時 は 飛 散 防 止 に 努 め ま し よ う
						FRACコード（殺菌剤）	IRACコード（殺虫剤）				
1			休眠期	発芽促進(CX-10)処理, 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害	罹病枝, 巻づる, せん定枝, 落葉は園外に持ち出す 防風垣を整備し, 園内の通風を良くする					
2					◎晩腐病, 褐斑病 黒とう病	ベフラン液剤25	M7	250倍	400cc		月 日
3	中	萌芽直前	ビニル被覆 灌水		◎べと病 黒とう病	キノドーフロアブル	M1	600倍	166cc		月 日
4	上中	発芽期 展葉期	芽かき		◎べと病, 褐斑病 晩腐病, 黒とう病	ジマンダイセン水和剤	M3	1,000倍	100g	※ 病害は十分な散布量(300% 10a以上)で 初期発生を確実に抑える  ○アガネサルハムシ スミオン水和剤40 1,000倍 1B ※ 病害発生防止のため, 湿度が上がらない ように換気する	月 日
	下	展葉7~8枚	新梢誘引 フラスター液剤(500倍)散布	◎べと病, 褐斑病 晩腐病, 黒とう病	ジマンダイセン水和剤	M3	1,000倍	100g	月 日		
5	上	開花前	新梢誘引		◎灰色かび病, 晩腐病	スイッチ顆粒水和剤	9, 12	2,000倍	50g	※ 灰色かび病は耐性菌発生の恐れがある ため, 同一農薬を連用しない ○灰色かび病 ハースワード顆粒水和剤 1,500倍 17 ○チャノキアザミウマ アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 4A ○晩腐病(多発園: 落花期) アミスター10707アブル 1,000倍 11	月 日
	中	開花初期 開花直後	花穂整形	◎灰色かび病 黒とう病	フルーツセイバー	7	1,500倍	66g	月 日		
	下	落花期 果粒肥大期	花がら落とし 摘粒	◎チャノキアザミウマ	コルト顆粒水和剤	9B	3,000倍	33g	月 日		
6	上	果粒肥大期 (大豆粒期)	摘粒		◎晩腐病, 褐斑病 黒とう病 ◎アザミウマ類, ハマキムシ類	袋掛け前 オンリーワンフロアブル	3	2,000倍	50cc	※ 袋掛け前にアザミウマ類を必ず防除する ○コウモリカ ガットサイトS 原液~1.5倍(21日前まで) ロベンゾット スプレー噴射(前日まで) 【袋かけ後】 ○チャノキアザミウマ(多発時) ダントツ水溶剤 2,000倍(前日まで) エクスルSE 5,000倍(前日まで) ○ハマキムシ類 スターマイトフロアブル 2,000倍(14日前まで) ○ハマキムシ類 サムコフロアブル10 5,000倍(前日まで) ○べと病 エトフィンフロアブル 1,000倍(7日前まで) レーバースフロアブル 2,000倍(7日前まで) ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで)	月 日
	中	硬核期	新梢誘引	◎褐斑病 黒とう病	ビニール除去前 オーシャインフロアブル(7日前まで)	3	2,000倍	50cc	月 日		
	下		ビニール除去	◎べと病	ランマンフロアブル(14日前まで)	21	2,000倍	50cc	月 日		
7	上中下	果粒軟化期 着色開始	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg		月 日	
8	上中下	成熟期	収穫始め							月 日	
9			収穫終わり		◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q スミオン水和剤40	M1 M1 1B	500倍 30倍 800倍	200g 3.3kg 125g	スミオン水和剤40の散布は収穫後に限る	月 日
10			土づくり ↑ 土壌改良資材 堆肥投入 中耕 ↓		◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	ブドウトラカミキリ発生時は, ダントツ水溶剤 2,000倍を加用する 4A	月 日
11		落葉前			◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	※ 早期落葉を避け, 初霜まで葉を保つ	月 日
12		休眠期	排水対策 縮・間伐 整枝・せん定 巻づる除去							○白紋羽病 フロサイトSC 500倍 50~100% 樹 29 ※ 灌水器で樹幹から半径1m程度の範囲で 数か所に灌注処理。かぶれに注意	月 日

注1) 令和元年12月4日現在の登録内容に基づき記載  
注2) 農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

## 【施肥基準例】

くみあいぶどう配合1号(7-7-7)使用の場合 (10aあたり)

時 期	生産量			
	0.5t	1.0t	1.2t	
初秋肥	9月下旬	0.4袋	0.7袋	0.8袋
秋 肥	11月中旬	1.7袋	2.8袋	3.4袋
堆 肥	落葉後	完熟牛ふん堆肥500kg		

※収穫後葉色の濃い園では, 初秋肥を施用しない

## 【植物成長調整剤】

薬 剤 名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布又は塗布	10~20倍	150~200% 10a 以内	1回
フラスター液剤 (巨峰・施設栽培)	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開 葉7~11枚 時(開花 始期まで)	散布	500~800倍	100~150% 10a 以内	2回

※使用薬剤, 時期, 濃度, 量, 方法については, 品種ごとにラベルを熟読の上使用する

< 農薬登録内容が変更されている場合があるので, 農薬使用前には表示ラベルをしっかりと確認しましょう! >